

（一社）日本シャッター・ドア協会

LCCO₂原単位整備の検討を開始

総会後記者会見を開催し、新年度の取り組みについて発表した。

26年度は、浸水防止用設備パネル型の技術標準の策定やシャッター・ドアに関するLCCO₂原単位の整備を検討する。

浸水防止用設備パネルは、止水材などに代表されるシャッターやドア以外の浸水防止設備で、以前から技術標準の策定が検討されていた。

LCCO₂原単位の整備は、国で建築物のライフサイクル全体での脱炭素化を評価する仕組みづくりが行われていることを受けたもの。

青木徹専務理事は「暗中模



（一社）日本シャッター・ドア協会 潮崎敏彦 会長

索の中のスタートだが、まずはシャッター技術委員会・ドア技術委員会の主要メンバーでWGをつくり検討する方針だ」と話す。

協会によると、25年度のシャッター出荷量は、対前年度比6・4%減、ドアの出荷量は同8・5%減となった。

（社）住まいの屋根換気壁通気研究会

住宅外皮マイスターに上位資格を導入

2021年にスタートした「住宅外皮マイスター」資格制度に、上位資格「住宅外皮グ

ランドマイスター」を導入する。

通常の「住宅外皮マイスター」では、試験会場で「住まいの耐久性大百科事典」の持ち込みが可能となっているが、新設した「住宅外皮グラ



右から神戸睦史理事長、宮村雅史理事、松尾和也理事

ち込みが不可となる。現代の住宅事故は複雑な問題が絡み合い、原因の究明が一層難しくなっている。こうしたなか、ランドマイスターは、「各種技術資料を読み返さなくても、外皮の基本的な注意事項に対して適切に理解し早急に対応できる知識を保有することが求められる」（宮村雅史理事）とした。

リー・X・L／旭化成ホームズ／旭化成リフォーム

使用済みアルミ部材を再生する資源循環スキームを構築

使用済みアルミ部材の循環利用スキームを構築した。スキームでは、旭化成リフ

フォームが実施する改修工事の過程で発生した使用済みアルミ部材などを、旭化成ホームズの社内施設で分別作業を実施し、選別した部材をLIXILに運び込む。これをLIXILの独自技術によって循環型低炭素アルミ「PrimeAL」として再生し、旭化成ホームズの住宅用アルミサッシなどに生まれ変わらせる。現在、スキームの段階的な構築・検証を進めており、関東エリアの改修工事で発生した使用済みアルミ部材を対象に、一連のプロセスのトライアルを行っている。

なお、旭化成ホームズが分別した使用済みアルミをLIXILに運び込む際には、新築部材配送後の帰りのトラックを有効活用する。

ユナイテッドボード

情報発信型のショールームをオープン

紙板を素材にしたインテリア建材や家具などを展開するユナイテッドボード（東京都江戸川区、坂本恒太代表取締役）が、東京・江戸川区に情報発

信型ショールーム「同潤会通りスタジオ」をオープンした。同社は、強化ダンボールを使用した「ダンフスマ」や、その技術を生かし、紙板を基材にした可動間仕切り「Ud oorシリーズ」などを手掛け、「紙具」というブランドで展開している。特に「Ud oorシリーズ」は軽量なことや後付でも設置しやすい構造が評価され、戸建て住宅でも採用が広がっている。

「同潤会通りスタジオ」は、「Ud oorシリーズ」を始めとする「紙具」ブランドの商品を展示したショールーム。「暮らしの未来をしつらえる」をコンセプトに実際の設置例を展示し、操作性や機能性が確認できるなど、体感型としているのが特長だ。



同潤会通りスタジオ

業界動向NEWS

外皮は「現場対応力」の時代へ 上位資格も新設

住まいの屋根換気壁通気研究会

住まいの屋根換気壁通気研究会（理事長＝神戸睦史・ハウゼコ社長）は5月22日、2026年総会を開催した。あわせて第5回住宅外皮マイスター資格試験合格者交流会も開催。今年度から上位資格「住宅外皮グランドマイスター」資格制度を新設するこ



住宅外皮マイスターの登録者が全国で432人に達したことを報告する神戸睦史理事長

とを発表した。

同研究会は2014年10月、木造住宅の外皮の耐久性向上を目指して設立。実務者と学識経験者が連携し、外皮の耐久性の知見を蓄積してきた。21年には、外皮全体の構造と性能の確保に関する知識と実務能力を認定する資格「住宅外皮マイスター」を創設した。

総会の開会に先立ち、理事の宮村雅史さん（前国土技術政策総合研究所建築研究部構造基準研究室特任研究官）が第5回（25年）住宅外皮マイスター資格試験の結果を報告。受験者81人に対し57人が合格した。また、神

戸さんは、「住宅外皮マイスターの登録者が全国で432人に達した」と報告。さらに「ウェブサイト上ではマイスターMAPを公開し、地域ごとの技術者を確認できる体制を整備している」とした。

住宅外皮グランドマイスターは、要因が複合的で原因の特定や修繕が難しい不具合が増加していることを受けて創設。宮村さんは「設計段階での耐久設計判断や現場管理、保守点検、修理時の即応など、総合的な対応力の必要性が求められている。施主や施工担当者への説明力も含め、外皮の要点や納まりを理解し現場で判断できる人材がグ

ランドマイスターにふさわしい」と説明した。

総会後に開かれた交流会では、プロフェッショナルエンジニア・木造構造設計士の伊藤公久さんが、今年1月に亡くなった同研究会の理事・坂本雄三さんとの思い出について講演。続いて理事の石原沙織さんが建築防水の役割を解説した。

その後、合格者への資格証授与式が行われた。合格者の1人、出田建築工房（熊本県益城町）社長の出田宏行さんは、「断熱・気密に加えて耐久性を重視した家づくりに取り組みたい。資格取得を機に顧客への説明力を高

住まいの屋根換気壁通気研究会



資格証授与式でスピーチする出田建築工房の出田宏行さん

め、長く住み続けられる住宅の提供につなげたい」と語った。

第6回目となる住宅外皮マイスター資格試験は10月に東京、大阪、福岡で開催する（14面に関連記事）。上位資格の導入とあわせ、外皮耐久分野の人材育成を強化する。

団体

熱中症死傷者、25年は1803人で過去最多 安衛則改正で死者数は減少

データ

厚生労働省

厚生労働省は5月27日、2025年の熱中症による職場での死傷災害発生状況（確定値）を公表した。死傷者数は1803人と前年から約43%増加し、統計開始以来最多を記録。一方、労働安全衛生規則の改正もあり、死亡者数は19人と前年比約39%減となった【グラフ1】。死者が出た19件のうち、熱中症予防のための労働衛生教育が実施されていなかった事例は9件確認されたという。

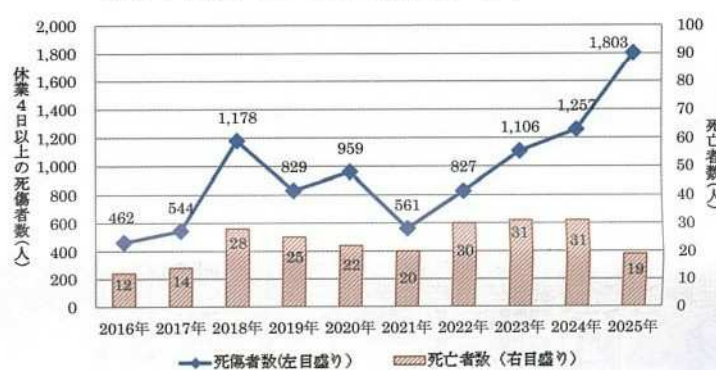
気象庁によると、25年6～8月の平均気温偏差（基準値[1991～2020年の30年平均値]からの偏差）はプラス2.36℃と、観測史上最高を記録。同省は史上最高の気温偏差が死傷者数増加の一因になったと推測している。一方、25年の労働安全衛生規則改正で、報告体制の整備や対応手

順の作成が義務化。改正が重篤化防止に一定程度機能し、死亡者が減少したとみている。

業種別に死傷者数をみると、建設業の死傷者数は292人。製造業の365人に次ぐ2番目の多さとなった。過去5年間の累計でも、建設業は全体の18.7%を占めている。さらに死亡者数は25年は5人と全業種で最多となり、過去5年累計でも39.7%と最も高い割合を占めた【グラフ2】。

月別では7～8月の発生が7割以上で、死亡者もこの2カ月間に集中している。年齢別では50歳代以上が50%以上を占める。死亡者は40歳代以上に集中し、50歳代以上が約84%となった。21年以降の5年間でも同様の傾向がみられ、加齢による身体機能の低下が熱中症の発症リスクを高め、

【グラフ1】
職場での熱中症による死傷者数の推移



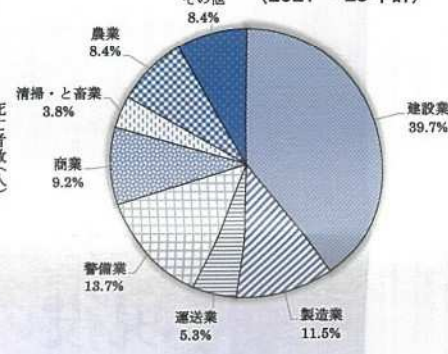
死亡につながっているとしている。

25年の死亡災害の例としては、9月に発生した鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業の50代男性の事例が取り上げられた。男性は気温34.7℃の屋外で、集合住宅の新築工事現場において解体された壁型枠の材料を上階の同僚に手渡す作業に従事し

ていた。男性が作業中に床に座り込んでいるところを同僚が発見。意識があったため水分をとり、空調がある車内で休憩したものの症状は改善せず、同僚の車で病院に向かう途中で意識を失い、救急搬送されたが死亡に至ったという。

同省は、今後の対策として、熱

【グラフ2】
業種別の死亡者数の割合
（2021～25年計）



中症のおそれがある作業者の早期発見体制の整備、重篤化を防ぐ対応手順の作成と関係者への周知徹底の必要性を指摘。あわせて、WBGT値の把握とそれに応じた作業管理の実施を基本に、持病を有する作業員への配慮を含めた総合的な予防対策の強化を求めている。

屋根換気「外皮マイスター」

合格者累計で432名

住宅用換気部材などを製造する㈱ハウセコ(大阪市、神戸、歴史社)が事務局を務める「(二社)住まいの屋根換気壁通気研究会(理事長「神戸」氏)は5月22日、第5回「住宅外皮マイスター」資格試験を、第5回資格試験交流会に先立ち行われたバラベット実技研修



交流会に先立ち行われたバラベット実技研修

では81名が受験し合格者は57名、同試験合格者は累計で432名となった。住宅外皮マイスターは、同研究会が創設した民間の任意資格だが、合格者は屋根工事業者や住宅会社、工務店などが名を連ねる。この資格は「建築物の耐久性、防水性、通気性などに関する専門知識を習得した証となる」とされる。

また今年より導入される「住宅外皮クランドライスター」の資格試験は、同研究会が作成した「住まいの耐久性大百科事典」シリーズの持ち込みがこれまでと異なっており、このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。

このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。

このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。

このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。

このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。このほか10月9日に試験と同じ日程、会場、試験範囲、受験料(2万円)で行われる。

瓦業界の4氏が受章

本紙5月18日号既報、令和8年春の叙勲褒章で瓦業界から4氏が栄に浴し、このうち3氏はこのほど東京で執り行われた伝達式に出席した。受章コメントは以下の通り。



萩原氏



清水氏と裕美夫人



長谷川氏と千秋夫人



藤井氏とかおり夫人

経済産業省関係で瑞宝章を受章した愛知県高浜市の鬼板節、萩原尚氏(74歳、萩原製陶所代表)は「私は瓦工事業では、国土交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

交通省関係で黄綬褒章を受章した鳥取県倉吉市の清水雅文氏(70歳、御モリサキ社長、全瓦連元専務理事)は「全瓦連執行部として6期目に入ります。常に心掛けていくことは、いかに構成員のために

仕上学会の技能賞

茨城の鬼澤氏らが受賞

日本建築仕上学会(野口貴文会長「東京大学教授、407名)は5月20日、東京・三田の建築会館ホールで2026年度通常総会を開催し、茨城の鬼澤一美氏(68歳、鬼澤瓦工業「茨城)が「瓦工の標準化と普及」に関する貢献として、田島ルフィング

日本建築仕上学会(野口貴文会長「東京大学教授、407名)は5月20日、東京・三田の建築会館ホールで2026年度通常総会を開催し、茨城の鬼澤一美氏(68歳、鬼澤瓦工業「茨城)が「瓦工の標準化と普及」に関する貢献として、田島ルフィング

日本建築仕上学会(野口貴文会長「東京大学教授、407名)は5月20日、東京・三田の建築会館ホールで2026年度通常総会を開催し、茨城の鬼澤一美氏(68歳、鬼澤瓦工業「茨城)が「瓦工の標準化と普及」に関する貢献として、田島ルフィング

日本建築仕上学会(野口貴文会長「東京大学教授、407名)は5月20日、東京・三田の建築会館ホールで2026年度通常総会を開催し、茨城の鬼澤一美氏(68歳、鬼澤瓦工業「茨城)が「瓦工の標準化と普及」に関する貢献として、田島ルフィング

「スター・ウォーズ」デザイン限定販売
Tシャツ型空調服
熱中症警戒アラート
国が運用開始
環境省と気象庁はこのほど、令和8年度熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラートの運用を開始した。熱中症警戒アラートは暑さ指数(WBG)が33以上(特別警戒アラートは35以上)の場合、都道府県単位で環境省が前日の17時頃と当日の5時頃に発表。発表状況はニュースや天気予報、環境省や気象庁のサイトで確認が可能。

「スター・ウォーズ」デザイン限定販売
Tシャツ型空調服
熱中症警戒アラート
国が運用開始
環境省と気象庁はこのほど、令和8年度熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラートの運用を開始した。熱中症警戒アラートは暑さ指数(WBG)が33以上(特別警戒アラートは35以上)の場合、都道府県単位で環境省が前日の17時頃と当日の5時頃に発表。発表状況はニュースや天気予報、環境省や気象庁のサイトで確認が可能。

談話室

生産から屋根に施工される過程、その後の廃棄に至るまでの炭素排出量を確認し、環境負荷を定量的に評価、可視化するもの。三州ではまだ中東情勢の影響で工場の止めるまでには至っていない。

会 担当/平氏 06・4963・8266

野と同様の荷動きで推移し、5月の大型連休前の駆け込みもなく、足元も精彩を欠く状況。店売りでは母材メーカへの値上げアナウンスにより、安値競争は収束し、底値感が台頭している。一方、需要が低迷しており、転嫁には時間がかかる可

【その他】
中東情勢影響により原油由来の潤滑油やPバンド（梱包材）といった副資材の大幅な値上げと人手難が起きている。また、シンナーや塗料も不足感が漂っており、今後はCC操作への影響が懸念されている。

4月全国生産
増の1万5096トン
連続増、東西ともプラス

カーで実績調査によると、引抜鋼管の4月生産量は前年同月比11・7%増の1万5096トンだった。プラスは3カ月連続。前月に続き、東部と西部の両地区が前年値を上回った。

5月の21品種別需給
全鉄連
11種が過剰感強まる
極厚板は再び過剰に

鉄鋼管・ラインチューブの需給は今年度から西部に集約。さらに西部のオザワ工業が賛助会員に転じて報告をも下った。24年同月休止したため、東部が比では12・5%増。鋼種別では、普通鋼鋼管が2社減の9社となる。前月比5・4%減の1万4611トン。特殊鋼鋼管が11・8%増の4855トン。構成団体別では、東日本の東部鋼管連続となり、西部も7カ月連続に伸びた。

千葉県鉄骨工業会が総会
千葉県鉄骨工業会（理事長・林紀宏）は22日、千葉市中央区のオークランドホテルで第40回通常総会を開催した。

千葉県鉄骨工業会が総会
千葉県鉄骨工業会（理事長・林紀宏）は22日、千葉市中央区のオークランドホテルで第40回通常総会を開催した。

野原グループは26日、都内で内装工事会社や建材メーカーで構成する「野原建築会」の通常総会を開催し、来賓を代表して野原弘一社長が挨拶した。

野原弘一社長は中東情勢をはじめ建設業界の現状に就いて、重要な開き、交流を深めた。

日鉄物産システム建築
関西支店長に就任した
田中 久嗣氏



注に「ながら、一先、価値を得ている」と話を高松に残して単身赴任中。長女の中学進学を機に、長女を呼び寄せる長へ言っていた。おトワークに、品のは「敵を知り己客さまから信頼を得る」と強化していく考え。らず。振り返る。

人事異動
（6月18日付）
【新任取締役】
【常務取締役】
【取締役】

静清鋼業社長に
鈴木執行役員
アイ・テック

タカミヤが「人的資本投資」推進
仮設機材の開発・製造・販売・レンタルを展開するタカミヤは、業務負担の最適化と育児・介護支援を軸に人的資本投資を推進している。人手不足や高齢化を背景に建設業界の構造的な課題が存在する中、このほど「健康経営優良法人2026」に認定。経営哲学「人材が企業の本質である」のもと、社員が主体的に成長機会を選択できる環境づくりを目指し、労働環境の改善と人材定着の両立を追求している。

「業務負担最適化」と「育児・介護支援」軸に
同社では、働き方の。個人を特定しない可視化を目的にデジタル形で情報を共有し、長時間労働の抑制や業務ルールの見直しを図られ、有給休暇の取得率は2020年度の47・6%から24年度には75・3%に向上した。

住宅外皮マイスター
合格者交流会開催
上位資格「グランド」導入

住宅外皮マイスター
合格者交流会開催
上位資格「グランド」導入

住宅外皮マイスター
合格者交流会開催
上位資格「グランド」導入

関西プレカット協議会

防水・湿気対策の重要性と技術革新へ

実務者が使える解決策を提示

【一社】住まいの屋根換気設備研究会は5月22日、「第五回住宅外皮マイスター資格試験合格者交流会」を開催した。当日は、プロフェッショナルエンジニア木質構造設計士の伊藤公久氏、千葉工業大学創造工学部建築学科教授の石原紗織氏の講演が行

われた。開会にあたり、研究会理事の岩前篤氏があいさつに立ち、研究会の歩みを振り返りながら「同研究会の本来の目的は、住まいの屋根換気に関連する研究をすることである」と始めた。

続けて、業界が抱える課題にも言及し、「防水と湿気対策は今後ますます重要になる。研究だけでなく、実務者が使える解決策を提示していく必要がある」と強調した。さらに、AIを活用した

知見共有にも期待を示し、交流会を通じて得られる情報を普遍化し、業界全体の底上げにつなげたいとした。

会場では、26年1月に逝去した東京大学名誉教授で同研究会理事の坂本雄三氏

を悼み、黙祷が捧げられた。坂本氏は研究会発足当初から外皮性能向上に尽力し、技術基準の整備にも大きく貢献した人物である。

黙祷後、伊藤氏が講演に立ち、坂本氏との思い出を振り返りながら、外皮性能をめぐる国内外の動向を紹介した。伊藤氏は、日本とカナダの住宅技術交流の歴史に触れながら、1980年代以降の高断熱・高気密住宅の研究の流れを説明し

た。特にカナダで開発された高性能住宅プログラム「R2000住宅」や、近年の「エネルギー・テックコード」といったプログラムを取り上げ、省エネルギー評価システムなどの解説も行った。建物全体を一つのシステムとして捉える「ハウス・アス・ア・システム」の考え方が現在の住宅設計の基礎になっているという。断熱材の性能だけでなく、熱橋や実質断熱性能値を正しく評価することが不可欠とのことだ。

また、気候変動に伴う湿度上昇や逆転結露への対応として、外装材の透湿性や換気計画の重要性を強調した。さらに、カナダの天然資源省が主導する、省エネ住宅の普及、建築技術を推進するプログラムLEEPの取り組みを紹介。産（住宅産業）・学（識者）・官（天然資源省）が連携して技術基準の共有や改善をしていく仕組みが住宅性能向上に寄与していると説明。そこで伊藤氏は「坂本先生が多くの研究資料を残してく

第五回住宅外皮マイスター資格試験合格者交流会

住宅設計の知見の転用と

地域密着型建築のあり方

中大規模・非住宅木造特集

中大規模・非住宅木造建築の価値は工務店経営の選り手である。木造を積極的に活用することは地域産業の枠組みで住宅供給の事業を営む工務店「らしさ」をより補強する姿勢としてア

とにとまらなく、中東情勢緊迫化による国際的な供給網の混乱も、地域の流通ネットワークがあれば一定程度距離が置けるものと考えられる。建築のプロフェッショナルが担う役割は、図面を引いて建物を建てるこ

う選択肢は、地

住宅の雰囲気を求めるオフィス空間

うには相応の覚悟が必要だ。しかし、変化の激しい時代において、かつての成功体験に安住し、既存の住宅供給の枠組みに留まり続けることが、最も危うい選択である。地域に根を張り、経済を循環させ、社会のあり方をデザインするその役割を自ら定義し直したとき、着工後の時代でも選ばれ続ける工務店経営が完成する。次代の社会を形作る主役は工務店であるはずだ。

中大規模・非住宅木造建築の価値は工務店経営の選り手である。木造を積極的に活用することは地域産業の枠組みで住宅供給の事業を営む工務店「らしさ」をより補強する姿勢としてア

とにとまらなく、中東情勢緊迫化による国際的な供給網の混乱も、地域の流通ネットワークがあれば一定程度距離が置けるものと考えられる。建築のプロフェッショナルが担う役割は、図面を引いて建物を建てるこ

う選択肢は、地

住宅の雰囲気を求めるオフィス空間

うには相応の覚悟が必要だ。しかし、変化の激しい時代において、かつての成功体験に安住し、既存の住宅供給の枠組みに留まり続けることが、最も危うい選択である。地域に根を張り、経済を循環させ、社会のあり方をデザインするその役割を自ら定義し直したとき、着工後の時代でも選ばれ続ける工務店経営が完成する。次代の社会を形作る主役は工務店であるはずだ。